

## 随 想

### 私が見た中日の文化差異

楊 舒

こんにちは、中国天津からの楊舒です。日本に来て2年半になりました。この間に、わたしは日本を理解するために、いろいろなイベントや国際交流会や市民の祭などに参加し、たくさんの感想がありました。一番印象深いのは、中日両国の文化差異です。同じ漢字を使っている中国と日本は、基本的な考え方や生活スタイルが異なると思いました。

中国と日本では、同じ漢字の使い方でも意味が同じ場合もあれば、まったく異なる場合もあるということです。例えば国家、家庭、学校等は漢字も意味も完全に同じですが、汽車、手紙、湯などは同じ漢字でも意味は全然違います。中国では、汽車は自動車、手紙はトイレットペーパー、湯はスープの意味です。私は日本にきたころ、「湯」という看板を見て、スープを売っている所だと思いました。

中国では、漢方薬のことを中薬と称し、西洋の薬のことを西薬といいます。西洋料理は西餐、洋服を西服と言います。ちょっと昔は西洋からのものは洋という字が付くものが多くありました。例えば蠟燭は洋蠟、マッチは洋火、玉葱は洋葱などです。

同じ漢字でもいろんなエピソードがあるように習慣の相違もたくさんあります。中国では、親愛の情をあらわす挨拶のひとつとして、「ごはん食べたか？」と聞きます。道で近所の人にあっても、学校で友達にあってもごはん時なら「こんにちは」とか「こんばんは」といいません。「もう食べたよ！」と答えるか「まだだよ！」と朗らかに答えるのが中国式なのです。

中国のお正月は、毎年旧暦で行われ、春節のために家の門や窓に福祿寿喜といためでたい文字を書いた四角の赤い紙を貼る習慣があります。これは春聯と称し、日本の門松に相当します。中国では赤い色はめでたい色とされているからです。ところが、このめでたい春聯をどこの家でも逆さに貼ってあるのです。日本ではこのめでたいものを逆さにしたら寿福ひっくり返って不幸を招くのではないかと心配する人もいました。しかし、これは同じ発音の到（来る）

に結び付けて、到寿（めでたいことが来る）到福（福が来る）と考えるためです。中国では、この「到」は到ると倒れる二つ意味があります。

こういった中日両国の文化、生活様式、習慣の差異は、おもしろいですが、一方実際的な生活中に大変な誤解も生じるかもしれません。日本で留学しているわたしですが、今後もっと一層の努力をおしまず研鑽し、中国と日本の両国人民の相互理解と友好交流に貢献します。

（名古屋大学医学部大学院生）